平成２９年度　第３回　北海道紋別養護学校　学校評議員会の概要

２月１９日（月）に今年度の第３回学校評議員会を紋別養護学校で開催しました。
その概要についてお知らせします。

１　【説明】平成２９年度学校評価について

○　紋別養護学校の学校評価

□高い評価の項目

・相談し合える環境、給食での危機管理
　予算の適正な使用　（学校職員）
・「指導計画」の分かりやすさ　（保護者）

■低い評価の項目

・効率的な会議運営　（学校職員）
・ＰＴＡ活動　（保護者）

＜次年度に向けて＞

①効率的な会議や打ち合わせになるよう、事前準備や内容の精選などを行う。
②学部間のつながりを意識した教育活動ができるように教育課程を整備する。
③保護者と一層のコミュニケーションを図り、個別の指導計画等を活用し、指導方針を共有する。
④ＰＴＡ活動に無理なく参加できるように、時間や内容を工夫する。

○　ひまわり学園分校の学校評価

□高い評価の項目

・個人情報の管理、給食での危機管理
　（学校職員）
・安全管理、予算の適正な活用、職員との連携、施設職員の態度　（保護者）
・安全管理　（学園職員）

■低い評価の項目

・進路に関わること
　（学校職員、保護者、学園職員）

＜次年度に向けて＞

①卒業後を見据えた目標設定や指導内容の充実を図り、学部間のつながりを意識した指導を行う。
②進路及び指導方法について学部間で共有し、保護者や学園職員へ丁寧な説明を行う。
③校内規定の整備や校内ポータルサイトの活用などを通して、より効率的・効果的な会議や情報共有を行う。

２　評　議

効率的な会議や打ち合わせについて

・連絡調整会議や学校運営委員会で、スムーズな学校運営になるように情報交換を行っている。
・限られた時間内に話し合いを行うことも、プロとしての資質である。また、隙間の時間を有効に使い、教師間で日常的に子どもの情報を共有することが必要である。

保護者、教員間との連携について

・個別懇談や日常の引き継ぎにおいて、家庭から提案したことをすぐに取り入れてくれたり、寄宿舎から教わったことを家庭や福祉事業所で実践したりなど、十分な連携ができていた。
・教師間での連携は、情報を発信する側だけでなく、情報を受け取る側の経験や技量も関係する。紙面や言葉など、いろいろな手立てを講じて情報共有する必要がある。

進路指導に関わって

・学園を利用している子どもたちが、地域社会で適切な進路選択ができるように、学校と施設が今まで以上に連携する必要がある。
・子どもが自分に合った進路選択ができるように、全職員が子どもの将来を見据えた段階的・計画的な進路指導を行う必要がある。

３　一年間を振り返って

・先生方が熱心に取り組まれている。子どもの発達段階に合わせて適切な指導ができるように期待している。教育課程を分かりやすいものにして、共通認識を持って頑張ってほしい。
・授業見学をとおして、先生が子どもに寄り添う姿が印象的だった。今後も期待している。
・福祉の現場では、呼び捨ては人権侵害になる。学校でも子どもたちに「さん」をつけて呼び、子どもの人権を尊重しながら指導することが大切である。
・PTA活動を通じ、様々な研修会や講演会に出席することで、進路をはじめ様々な情報を得ることができた。今後も、より充実したPTA活動を展開できるように期待している。